

④ 椿の森を後世に伝える会

琴浦町別所の森林に造られた庭園「椿の森」の維持管理に取り組み、鑑賞会や自転車レースなど、親子連れも楽しめるイベントを開き、自然保護の大切さを伝える舞台装置として活用。地域を元気にする県内の優れた地域づくり活動を表彰する「令和7年度鳥取県ミラクル・とっとり運動・SDGs活動表彰」の一般部門で最優秀賞を受賞した。椿の森は、同所に住んでいた故加藤三良右衛門さんが、ツバキやサツキなどの



自然保護の大切さ知る場に



「椿の森を後世に伝える会」のメンバーら

庭木を約2千本植えて手作りした約5畝の巨大な庭園。サザンカを含むツバキ類は約800品種があるとされ、隠れた花の名所として長年、近隣住民に親しまれてきた。

2019年に加藤さんが死去した後は家族やボランティアが管理を続け、24年に「後世に伝える会」(25人)が発足。25年には加藤さんの孫の知久馬志穂さん(45)一家が移り住み、活動の中心を担っている。

夫で同会代表の梓さん(42)は「長く森を保全していくには多くの人に知ってもらうことが必要」と話す。散策ツアーや花びら染め体験など、月1回のペースでイベントを企画するほか、昆虫観察会や遊歩道を使ったオフロード自転車レースなども開き、老若男女に森の存在を宣伝している。

梓さんは「善意に頼るばかりでなく、森を資源として活用し、保全資金を生み出せる仕組みを作りたい」と話す。